



平成 25 年 10 月 21 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所
(コード番号：4570)
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 清 藤 勉
問 合 せ 先 取 締 役 事 業 統 括 推 進 本 部 長 中 川 正 人
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

中期経営計画の提出等について

当社は、平成 27 年 3 月期～平成 29 年 3 月期に係る中期経営計画を策定いたしましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、当該資料について、当社のホームページに掲載いたします。

U	R	L	http://www.ibl-japan.co.jp/jp/ir/index.htm
掲	載	日	平成 25 年 10 月 21 日

【添付資料】

「新中期経営計画（連結）」の修正に関するお知らせ

「新中期経営計画（連結）」の修正に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 6 月 14 日策定の新中期経営計画（連結）の数値を修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 修正の理由

平成 25 年 6 月 14 日策定の新中期経営計画（連結）における成長戦略の柱の 1 つである遺伝子組換えカイコ事業においては、遺伝子組換えカイコの繭から生産される抗体の大量受注が見込まれ、また、動物用ワクチンの開発についても計画通り進行しております。

また、当社グループの化粧品業界への参入については、ヒト・コラーゲン含有化粧品が、平成 25 年 11 月中旬に完成する予定で、国内外の具体的な販売先との交渉も始まっております。その他の成長戦略につきましても計画どおり推移しております。

しかしながら、当事業年度につきましては、同日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当社が、創立以来経営の柱としてきた研究用関連事業において、販売不振となり厳しい状況となっております。当社グループは、早急に研究用関連事業の体制を見直し、利益の回復を目指してまいります。

また、第 1 回新株予約権の行使による資金調達については、株価の状況により想定よりも遅れております。なお、使途に予定していた研究開発は、当社グループ内で順調に進行しておりますが、費用の発生時期は 1 年程度ずれ込む事が予想されます。

以上のことより、平成 25 年 6 月 14 日策定の「新中期経営計画（連結）」を見直し、平成 29 年 3 月度を追加致しました。

2. 成長戦略の進捗状況

（1）遺伝子組換えカイコによる動物用ワクチン開発

動物用のワクチンを、鶏・豚等の動物用医薬品として 5 年以内の実用化を目指してまいります。

（中期計画）

- 平成 26 年 3 月期までに、動物用ワクチンの生産、分析、評価のための研究開発を推進してまいります。

動物用医薬品企業との早期連携を目指す

- 平成 28 年 3 月期までに、安全性に関する非臨床試験を実施してまいります。
- 平成 30 年 3 月期までに、実用化を目指してまいります。

5 年以内の実用化を目指し、生産拠点や設備への投資、そして、優秀な技術を有するパートナーとの連携が必要と考えており、提携や M&A も視野に入れた活動を展開してまいります。

（2）化粧品業界へ参入

当社が生産に成功したヒト・コラーゲンを今までにないまったく新しい化粧品原料として、化粧品業界へ参入いたしました。

(中期計画)

- ・ 当社のヒト・コラーゲンを化粧品原料として全世界に販売を展開しております。
- ・ 平成 27 年 3 月期までに、化粧品業界に精通する人材の確保を行い信頼できる化粧品業界の企業との提携、M&Aを推進し、化粧品業界へ参入してまいります。

株式会社エムコスメティックス（化粧品製造販売会社）を連結子会社化（平成 25 年 10 月 1 日より）し、化粧品業界へ新規参入

(3) 脂質代謝解析関連事業への投資

当社は、生活習慣病が社会問題となる中、今後も同領域での創薬・研究支援に加え予防・診断支援などの需要が急速に増加するものと考え、株式会社スカイライト・バイオテック（以下、SLB 社）の全株式を取得することにいたしました。また、当社の同領域におけるメカニズムの解明を目的とした研究開発と SLB 社の最先端の脂質代謝解析技術を活用し、予防医学・健康医学に貢献してまいります。

(中期計画)

- ・ 平成 25 年 7 月 1 日に SLB 社を完全子会社化
平成 25 年 7 月 1 日に SLB 社を完全子会社化
- ・ 急速に増加する需要に対して、設備の増設、人材育成、優秀な人材の雇用が急務となっており、製品面や人材面において、当社とのシナジー効果を最大限に発揮し、当社グループが一丸となり、売上の拡大を図ってまいります。

今期における設備の増設及び人材確保を終了し、今後の売上拡大に向け人材育成中

(4) 体外診断用医薬品事業

当社は、研究用試薬の開発段階より、将来、診断に役立つ事を目指した抗体開発、及びそれを用いた測定キットの新製品の開発に取り組んでおります。分野として、当社の強みであるアルツハイマー病、がん・炎症及び糖や脂質代謝関連疾患の領域に特化した開発を行っており、現在、数項目において体外診断用医薬品の製造販売承認を目指すパイプラインを有しております。

(中期計画)

- ・ 当社の抗体を原料としているアルツハイマー病に対する体外診断用医薬品について、海外企業にて平成 26 年の上市を計画しております。
今年中に体外診断用医薬品として CE マークを取得し、来年より販売開始予定
- ・ 難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー CTP について、学校法人埼玉医科大学の有する本マーカーの発明に係わる知的財産権の独占的使用許諾を受け、体外診断用医薬品に向けた製品開発を行ってまいります。

専門家とコンサルティング契約を締結し、3 年後の製品化に向けて検討開始

- ・ 他社と差別化できる新規の体外診断用医薬品を製造承認に向け開発してまいります。
- ・ さらに体外診断用医薬品を取り扱う企業との連携などを行い、ライセンス事業による売上の拡大を図ってまいります。

3. 経営指標

新中期経営計画（連結）

（単位：百万円）

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
売上高	1,400	2,490	3,400
研究用関連事業	450	450	450
医薬用関連事業	120	190	220
遺伝子組換えカイコ事業	150	320	660
化粧品関連事業	400	1,030	1,500
脂質代謝解析関連事業	280	500	570
営業利益（損失）	80	300	500

参考（平成 25 年 6 月 14 日策定）

新中期経営計画（連結）

（単位：百万円）

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期
売上高	1,800	2,500
営業利益（損失）	50	300

以上